

第75回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成27年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

- ・ 復旦大学および上海博物館所蔵簡牘調査報告
- ・ 上博楚簡『成王爲城濮之行』を読む

発表者 復旦大学および上海博物館訪問調査団
宮内駿氏(早稲田大学大学院修士課程)

今回の研究会において、科研「出土資料と漢字文化研究会」のメンバーが調査団を結成し、復旦大学および上海博物館を今夏に訪問し、学术交流と研究調査の成果を報告致します。また、馬承源主編『上海博物館蔵戦国楚竹書（九）』（上海古籍出版社、2012年12月、定価800円）所収の『成王爲城濮之行』を取り上げ、研究会を行うこととなりました。

さて、『成王爲城濮之行』は甲本5枚・乙本4枚の全9枚の竹簡からなります。整理者によれば、篇題は元々無く、簡文の冒頭句から『成王爲城濮之行』と付けられました。その内容は、楚の成王が濮の地を視察した後に、臣下に軍事演習を行わせ、それについて問答をするものです。また、簡文の用字が西周初期の金文と近似していることから、本文は先秦期の文字や文献について研究する上での貴重な資料と申せましょう。

第75回目を迎えた今回の研究会は、調査報告を復旦大学および上海博物館訪問調査団が、研究報告を宮内駿氏（早稲田大学大学院修士課程）が担当し、最新の情報を盛り込んだ発表をいたします。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2015年9月26日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館2階216教室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 『上海博物館蔵戦国楚竹書』（九）の写真図版や釈文のコピーなどは、各自ご用意下さい。

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 池田知久 電話 03-3926-8568